

田倉川と暮らしの会 第5号

1999年4月12日発行

● 幻の明治の1号えん堤発見！



急斜面をよじ登ってついに発見した1号石組堰堤、雪解け水が溢れ出ている。

赤谷川の時が生んだ宝物、明治の石組み砂防堰堤群を探すアドベンチャー（ドラゴンリバー交流会後援）が3月27日行われた。雨降りの寒い日となったが、富山から澤田先生、飛び入りの門脇さん（動物専門）会員の中村、西野さん土地の伊藤代表、面谷、権八、宮崎、辻さんと私。大阪から木村さんがリポーターと写真家を連れて4人で前日から待機と総出14人の探検隊となった。去年の探検では樹木に阻まれ、沢は険しくて見通しも利かず土地の人もはっきりと覚えていない幻の1号堰堤の探検は見送りとなった。

当日沢は雪解けと雨の影響で水かさも高く、各堰堤から溢れる水しぶきのとどろく様は隊員の冒険心をゾクゾクとかきたてる。砂防や河川専門の澤田先生は、GPSを使って全部の堰堤をスケッチしていた。大阪からの一行は、「近畿川物語」のラジオ大阪取材班で、雨で緩んだ沢の斜面をどろんこになっての決死の取材となった。雪もほとんど融けて視界が良く、土地の人も驚きながら美しい堰堤群を次々と発見していった。2号堰堤をやっとの思いで登ったところで面谷さんがさらに奥の方で手を振って1号堰堤発見の合図をしている。雨の日の奥山はガスがたまってぼんやりしている。リポーターが面谷さんのところへ駆け寄っていった。大きな石でしっかりと組まれている。百年の間赤谷川の土石災害を守り続けた1号堰堤だ。大地におさまった美しい姿だ。面谷さんも初めて見るので興奮気味だ。ここは大平の土石流が発生した一番上流で、よく観察すると、流れ出た土石流によって谷間に大きな山が突然できたような形になっている。その上に立っていることに気がついて自然の大きな力にゾーと身震いがしてきた。建設省の中村さんは、「石組みによる堰堤と流路工は驚くばかりのデザインと建設技術だ。とても現代の技術では及ばない。素晴らしい人と川の文化遺産だ」と説明してくれた。

寒い日の探検は終わり、途中のベースキャンプ（伊藤さんたちの山の家）に戻った。辻さんと宮崎さんが囲炉裏を暖め奥山で捕れたシシ鍋を炊いて待っていてくれた。田倉川流域にはサルの集団やイノシシ、カモシカ、クマが生息しているという。今日も至るところにイノシシが餌を探した穴やカモシカの剥いだ雑木を見つけた。赤谷は人と歴史、自然の驚きや神秘、動物たちの営みなどをいっぱい秘めた山村空間博物館だ。（田中保土）



息弾ませながらリポーターに説明する道案内の面谷会員

● ゴンパおじさんと元気な少年たち ～またとない炭の窯だし体験～



田倉川体験キャンプ ボーイスカウト武生第6団（田中保士団委員長）は、小学生4人、中学生2人、高校生1人の7人の少年たちと指導者6人と共に、4月27・28日リトリートたくらコテージをベースキャンプに「田倉川と暮らしの体験」活動を行った。

事前にゴンパさん（会員の権八実さん）に炭窯見学をお願いしたところ、快く歓迎していただき、少年たちが来るまで焼き上がった炭窯

の蓋を開けないで待っててくれた。12月に焼いた炭を冬の間湿気ないようにと密閉したままにしていたものだ。ゴンパさんから、農山村の生活の移り変わりや、炭が殆ど使われなくなってしまったことや、炭や雑木林の環境負荷など、新鮮な話を聞いた。その後塞いである焚き口を開け、驚きと感激のなか代わる代わる真っ暗な窯に入り大奮闘の炭だし、炭切りまで終始灰まみれの満たされた笑顔での体験だった。ゴンパさんの生き生きとしたときめきの語り部は、本物のインタープリターである。

翌日は田倉川での魚釣りを楽しんだ。驚いたことに少年たちの殆どはルアー釣りの道具を持ってきた。海でも川でも池であっても釣りはルアーである。色とりどりのルアーに魅力があるようだがルアーでは振り回すだけでまったく釣れない。川の虫に河原のタケの竿を使って釣った魚は、ウグイとアマゴ大きなナマズをタモで捕った。

大の釣り好き少年たちは、川と釣りの道具と餌や釣りの方法を体験から学ぶこととなった。田倉川には沢山の魚が生息しているので、キャンプ生活に最適のプログラム。



感動の窯開けの儀式（写真上）、窯から炭を出す少年たち（左）、自然学校の先生ゴンパさんを囲んで記念写真撮影（右）

● 里山と川とたんぼの分校

田倉川と暮らしの会では、模擬自然学校活動を行っています。田倉川には自然体験をする場がふんだんにあり、宿泊施設も快適なコテージや旧分校舎など完備しています。会員には豊富な体験と知識を持ったゴンパさん、オモヤさんたち元気な土地の会員が、農林作業の合間をつくって奉仕しています。

その他、溪流砂防の専門家や山登り・カヌーの愛好家、放送作家など愉快的仲間がいます。あなたもいっしょに楽しみながら分校づくりを考えてみませんか。



端寺橋付近で河野温詞君（小5年）が釣ったアマゴ。観察の絵も河野君が画く。



田倉川端寺橋上流でタモで捕まえた体長50センチのナマズ、まだ水温が低いためか動きが鈍い。